

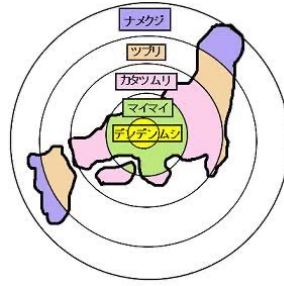
奈良ならではの方言

F 5 笹元凧 中麻希 土橋美優 草間心乃香 大谷紗也夏

私達の住む奈良県では、一般的に関西弁が使われています。

ですが一言で関西弁と言っても大阪弁、京都弁など種類があり、イントネーションや言い回しなどが違ってきます。そこで奈良県内でも地域によって違いがあるのかどうか気になり、本やインターネット、奈良高校の先生や生徒への聞き込みによって調べました。

～始めに～



「方言圏論」

方言	時代
ナメクジ	最も古い
ツブリ	古い
カタツムリ	中間
マイマイ	新しい
デテムシ	最も新しい

方言の地理的分布はほぼ同心円をなし、文化的中心地付近に新しい言い方が広まり、遠い所に古い言い方が残るという考え方。

① 聞き込み調査

～例～

関西弁 とう ありが↑	標準語 り あ↑がとう
関西弁 れ ほう↑ん草	標準語 ほう ↑↑れん草

始めに、奈良高校の先生や生徒に「ありがとう」「ほうれん草」などの地域によってイントネーションに差が出る言葉を言ってもらい、その人の住む地域とイントネーションを記録する調査を行った。

その結果、大きく分けて2つのイントネーションがあることが分かり、それぞれ関西弁と標準語のイントネーションとなることが分かった。多くの先生や生徒は関西弁のイントネーションとなっていたが、地域に関わらず標準語のイントネーションとなった人もいたことが分かった。

② 本やインターネットによる調査



関西弁、京都弁、博多弁など、方言と言われると〇〇弁と呼ばれるイメージがあり、沢山種類があるように思われているが、調べたところ日本に存在する方言は「方言区画論」によると約16種類しかないという。

分け方は、まず本土と琉球地方に分けられた。その本土方言はさらに東部と西部、九州方言に分けられた。さらに東部の方言は北海道方言、東北方言(北奥方言、南奥方言)、関東方言(東関東方言、西関東方言)、東海東山方言に分けられた。

「方言区画論」とは

方言を地域区分で分け、方言区画にした方言の区分論のこと。

～まとめ～

現在、日本では標準語化が進んでいます。特に若者にその影響が見られ、同じ地域に住んでいても年齢によって使う言葉が大きく異なってきています。その原因としては、テレビ、インターネットなどのメディアの普及や核家族化などが挙げられており、方言と触れ合う機会が減っているということが分かりました。

「方言は必要ない。標準語に統一すべきだ」という意見もよく見られますが、私たちはその意見に反対です。方言は地方ごとの歴史などが積み重なり今の形になった大切な文化のひとつです。奈良県独自の文化である方言、「奈良弁」を未来に残していくためにも、お年寄りの方と関わる機会を増やしたり、方言を学ぶ機会を作る必要があると今回の学習によって感じました。

～参考文献～

<https://www.buzzfeed.com/jp/yuyayoshida/osaka-tokyoword>

<https://thegate12.com/jp/article/381>

<https://kotobank.jp/word/%E6%96%B9%E8%A8%80%E5%91%A8%E5%9C%8F%E8%AB%96-131919>